

ランドレースの繁殖成績と発育調査

大川原 寛

(福島県畜試)

1. ま え が き

当場で昭和37年11月スウェーデン及び英国からランドレースを購入繁殖し育種を行つてゐるが、同年7月農林省から貸付になつたものと合せ、導入後の発育ならびに繁殖育成等の記録から、次のような調査結果を得たので、その実態について概要を報告する。

2. 調査豚・飼養管理法について

1. 調査豚

(1) 雄豚

No.	名号	生年月日	産地	血統		導入時体重	乳頭数		摘要
				父	母		右	左	
1	277タヌ オブプロム ハツカ	37. 1. 21	スウェーデン	902チ ツボオブ リュビユ	937ブ ロム・シ カポテル	171	7	7	
2	231ビー ゲルオブ リンボー	37. 2. 5	ク	ピントオ ブ・ツサゴ ールドン	878リ ンボーセ ーラー	170	7	7	
3	グレイ ンガー リン ス24	36. 7. 28	英国	アヌステ ッドドラ ゴン101	グレイ ンガー リン セス	240	7	7	
4	クニカウ デナ62- 58	37. 4. 22	大宮種畜 牧場	カウデナ ウエア ホーク 365	61ウル フワ リクベ イキ ングレ デー	29	8	8	

2. 調査豚

(2) 雌豚

No.	名号	生年月日	産地	血統		導入時体重	乳頭数		摘要
				父	母		右	左	
1	234セー ラ オブ リンボー	37. 2. 5	スウェーデン	ピントオ ブ・ツサ ゴール ドン	878リ ンボー セー ラー	145	7	7	導入時 の体 重は 妊
2	95アル ファ オブ フタ	37. 2. 20	ク	スフト オブ フォー ゲル フォル ス	445ト フ タル ファ	168	7	7	
3	414ホ デル オブ チャー ラ ゴ ール トン	37. 3. 5	ク	770チ ャー ラ ゴ ール ド ン バ ス テ ル ナ ツク	56チ ャー ラ ゴ ール ド ン バ ス テ ル ナ ツク	154	8	7	
4	2433ア デー リー ナ オブ ゴ デ スタ ツト	37. 3. 7	ク	2689 デ マン ホ ン ナ ー ブ	1851 ケ ー デ ス ダ ツ ト ア デー リー ナ	146	7	7	
5	ワイ ク ク ロ ス ベ カ 337	37. 1. 31	英国	ワイ ク ク ロ ス ト ー ケ ル 202	ワイ ク ク ロ ス ベ カ 184	143	7	7	
6	ニュー ノー ス ダン ズ ベ カ 110	37. 2. 3	ク	ワ ー ス レ ー ホ ー ク	ニ ュー ノー ス ダン ズ ベ カ 48	160	7	7	

No.	名号	生年月日	産地	血統		導入時体重	乳頭数		摘要
				父	母		右	左	
7	チステ ツド カ ウン テス 60	37. 2. 4	ク	チステ ツド シ ュー ブ リ ーム 3	チステ ツド カ ウン テス 22	153	7	7	
8	クニ マク ソ ク ツ キ 62- 1015	37. 4. 4	大宮種 畜 牧 場	マク ソ ク ツ キ ア ト ミ ツク	カウ デ ナ ボ ー ガ 1-6	48	6	6	
9	クニ カウ デ ナ 62- 1094	37. 5. 2	ク	カウ デ ナ ウ エ ア ア ホ ー ブ	メ ヤ ー ズ ミ ス テ ー	28.5	7	7	

※注 導入月日=スウェーデン産は昭和37年11月20日英国産は昭和37年11月28日、大宮種畜牧場産は昭和37年7月13日(アメリカ系)

2. 飼料の給与方法と給与量

(1) 繁殖豚の飼料はランドレース種豚用完全配合飼料(日配飼料)を使用した。

(2) 給与量

導入後～妊娠の初期まで 2.5～3.0kg
 妊娠初期～妊娠の末期まで 3.0～3.5kg
 分娩～離乳までの哺乳期間 3.5～5.0kg
 離乳時の3日～4日間 2.5～3.0kg
 離乳后期 3.0～3.5kg
 尚各期共ラジノクロバー2kg投与す

(3) 給与方法：朝3昼3夕4の割で、軽く打水して給与した。

3. ランドレースの収容豚房

(1) 導入時～妊娠中期までは、復列式豚舎の片側9尺四方の休養豚房に収容した。(2) 妊娠中期～離乳時までは、同豚舎の片側の9尺×12尺の分娩豚房に収容した。(3) 運動は妊娠中期までは20aの面積に、電牧を利用し自由に放飼した。(4) 離乳後は9尺四方の休養豚房に移した。

3. ランドレース導入後の发育調査

ランドレース发育調査(雄12ヶ月~18ヶ月)

12ヶ月令

産地	名号	生年月日	体重	体長	胸囲	管囲	体高	胸深	前巾	胸巾	後巾
スエーデン	277 タヌ オブロムバツカ	37.1.21	175	145	120	17	784	15	34	23	36
スエーデン	231 ビー ゲルオプリン ボ	37.2.5	165	154	119	19	750	14	325	25	34
英国	グレヘインガ ープリンス 24	36.7.28									
アメリカ	クニカウデナ 62-58	37.4.22	161	142	125	18	710	43	28	28	36
	平均		1670	1470	121 33	180	748	440	33 83	25 33	35 33

18ヶ月令

産地	名号	生年月日	体重	体長	胸囲	管囲	体高	胸深	前巾	胸巾	後巾
スエーデン	277 タヌ オブロムバツカ	37.1.21	238	165	136	19	868	51	405	34	39
スエーデン	231 ビー ゲルオプリン ボ	37.2.5	228	178	130	205	790	45	382	28	42
英国	グレヘインガ ープリンス 24	36.7.28	243	162	136	200	842	48	36	29	41
アメリカ	クニカウデナ 62-58	37.4.22									
	平均		192 66	168 33	134 00	19 83	83 33	48 00	38 23	30 33	40 66

ランドレース導入後の发育調査(雌12ヶ月令)

産地	名号	生年月日	体重	体長	胸囲	管囲	体高	胸深	前巾	胸巾	後巾
スウェーデン	234 セラ オプリンボ	37.2.5	163	143	112	17	72	41	305	205	34
スウェーデン	アルファオ フトター95	37.2.20	112	141	102	16	696	38	26	20	30
ドイツ	414 ボデ ルオプケーラ ゴールトン	37.3.5	128	143	102	163	70	39	29	23	30
ドイツ	2433 Pデリ ーナオプゴ デスタット	37.3.7	166	147	113	17	73	42	33	23	35
	最小最大		112 166	141 147	102 113	16 17	696 73	38 42	26 33	20 23	30 35
	平均		142 25	143 5	107 25	16 57	71 15	400	29 62	21 62	32 25
英国	ワイチクロス ベガ 337	37.1.31	1435	142	113	175	68	39	335	27	35
英国	ニューノスタ ンスベガ 110	37.2.3	173	143	118	18	72	42	35	22	36

産地	名号	生年月日	体重	体長	胸囲	管囲	体高	胸深	前巾	胸巾	後巾
英国	チステットカ ウンテス60	37.2.4	161	145	112	17	716	406	31	21	36
			1435 ~ 173	142 ~ 145	112 ~ 118	17 ~ 18	68 ~ 72	39 ~ 42	31 ~ 35	21 ~ 27	35 ~ 36
			159 16	143 33	114 33	17 50	70 53	40 53	33 16	23 33	35 66
アメリ カ	クニマクシ ンクッキー 62-1015	37.4.4	205	152	130	185	70	46	35	27	35
アメリ カ	クニカウデナ 62-1094	37.5.2	168	131	118	156	641	41	352	256	312
			168 ~ 205	131 ~ 152	118 ~ 130	156 ~ 185	641 ~ 70	41 ~ 46	35 ~ 352	256 ~ 27	312 ~ 35
平均			186 50	141 50	124 00	17 05	67 05	43 50	35 10	263	331
最小最大			112 ~ 205	131 ~ 152	102 ~ 130	150 ~ 185	641 ~ 73	38 ~ 46	26 ~ 352	20 ~ 27	30 ~ 36
総平均			157 72	143 00	113 33	16 98	70 03	40 95	32 02	23 23	33 57

ランドレース发育調査(雌18ヶ月)

産地	名号	生年月日	体重	体長	胸囲	管囲	体高	胸深	前巾	胸巾	後巾
スウェー デン	234 セラ オプリンボ	37.2.5	178	156	125	195	82	45	325	217	332
スウェー デン	アルファオ フトター95	37.2.20	168	142	109	175	712	395	28	22	31
ドイツ	414 ボデ ルオプケーラ ゴールトン	37.3.5	162	163	112	182	782	495	35	247	355
ドイツ	2433 アデ リーナオプ ゴデスタット	37.3.7	185	164	123	145	84	43	382	25	35
			162 ~ 185	142 ~ 164	109 ~ 125	175 ~ 195	712 ~ 840	395 ~ 495	28 ~ 382	217 ~ 25	31 ~ 355
平均			173 25	156 25	117 25	18 17	78 85	44 25	33 42	23 35	33 67
英国	ワイチクロス ベガ 337		182	148	122	178	700	40	406	32	41
英国	ニューノスタ ンスベガ 110		183	172	143	200	740	45	42	28	41
英国	チステットカ ウンテス60		152	146	114	175	730	412	32	23	375
			152 ~ 183	146 ~ 172	114 ~ 143	175 ~ 200	730 ~ 740	412 ~ 450	32 ~ 42	23 ~ 32	375 ~ 41
平均			171 66	155 33	126 33	17 83	72 33	42 06	38 16	27 66	37 31

産地	名号	生年月日	体重	体長	胸囲	管囲	体高	胸深	前巾	胸巾	後巾
アメリ カ	クニマクシン クツキ 62-1015	37.4.4	211	154	137	180	700	48	36	28	360
	クニカウデナ 62-1094	37.5.2	(S 3 8 1 0.4 農林省返還 胎形の出現 率高いため)								
	最小最大		152 ~ 211	142 ~ 172	109 ~ 143	175 ~ 200	700 ~ 820	395 ~ 495	28 ~ 42	217 ~ 32	31 ~ 41
総平均			177 62	155 62	123 12	18 25	75 30	439	35 52	25 55	36 27

4. 繁殖育成成績

1. ランドレース繁殖育成成績(初産)

名号	種付回数	種雌豚名	妊娠期間	分娩月日	分娩頭数(哺育開始)				生時平均体重	3週時平均体重	50日時平均体重	60日時平均体重	1日平均増体重	失格事項				登記頭数			育成率	備考	
					♂	♀	計	黒死産						立耳	斑点	施毛	胎形	♂	♀	計			
アルファオブ トフター 95	自然	649 ハブオブ クスランド	115	37 12.27	5	5	10	1.29	5.5	15.6	19.4	0.302						3	5	8	100	在胎輸入45日離乳	
414 ポテラオブ ケラホルトン	◇	グレイント オブ リンボ	117	38 1.7	6	0	6	1.66	6.4	17.0	19.9	0.364		1				4		4	100	在胎輸入40日離乳 分娩直後 1頭へい死	
234 セラオブ リンボ	人工2	277 タヌオブ フロムベツカ	117	38 3.17	5	7	12	死1	1.43	4.8	11.8	13.9	0.208	1	1			2	4	6	100	37日離乳	
2433 アダリーナ オブゴブスタット	◇4	◇	117	38 5.15	4	4	8	1.60	5.7	14.4	16.7	0.252						4	4	8	100	35日離乳	
テストット カウチス 60	◇2	ビーゲルオブ リンボ 231	117	38 3.29		5	5	1.60	5.6	11.5	14.3	0.212							4	4	8	100	16日離乳
ウイテクロス ベガ 337	◇4	グレインガー プリンス 24	114	38 5.2	4	5	9	1.56	5.1	13.5	18.3	0.279		1				2	5	7	100	37日離乳	
ニューズダンス ベガ 110	◇10																						不 産
クニマクシンクツキ 62-1015	◇2	グレインガー プリンス 24	114	38 4.8	5	6	11	1.32	5.6	13.1	15.6	0.288		3				2	4	6	90	37日離乳 生後14日へい死	
クニカウデナ 62-1094	◇2	◇	114	38 6.4	8	4	12	1.25	5.0	11.3	13.0	0.196		5		1				0	100	30日離乳	
計	8	7	114~ 117		37	36	73	1	11.25	4.88	10.22	13.11	0.291	6	6	1	4	17	26	43	98.75		
平均	2.6		115.02		4.63	4.50	9.13	0.12	1.41	5.48	13.5	16.4	0.240								58.90	失格登記は哺育頭数73頭に対する%	

(1) 子豚の離乳は初産のため40日前後で離乳としたが、母豚の栄養が極度に落ちるので現在は35日前後で離乳している。

(2) 子豚の飼料は生後12~30日ママA、30~50日ママB、50日以降コログンを給与す。

2. ランドレース繁殖育成成績(2産)

名号	種付回数 (種付月日)	種雌豚名	妊娠期間	分娩月日	分娩頭数(哺育開始)				生時平均体重	3週時平均体重	50日時平均体重	60日時平均体重	1日平均増体重	失格事項				登記頭数			育成率	備考	
					♂	♀	計	黒死産						立耳	斑点	施毛	胎形	♂	♀	計			
アルファオブ トフター 95	38 3.27	ビーゲルオブ リンボ 231	115	38 7.21	8	4	12	黒4 死2	1.4	4.1	12.73	14.91	0.248				1	除部1	2	3	5	66.6	生後24日♂3頭へい死 生後5日♀1頭へい死 35日離乳
414 ポテラオブ ケラホルトン	38 9.26	◇	117	39 1.21	3	2	5	0	1.48	6.92	17.21	19.90	0.331					2		2	30	生後2日1頭へい死 35日離乳	
234 セラオブ リンボ	38 6.19	グレインガー プリンス 24	116	38 1.013	3	4	7	死1	1.52	7.25	17.41	20.12	0.335				1	除のクへ ハニヤ1	2	3	5	100	◇
2433 アダリーナ オブゴブスタット	38 9.25	277 タヌオブ リンボフロムベツカ	114	39 1.18	3	5	8	死1	1.53	8.00	17.80	20.32	0.338					3	5	8	100	37日離乳	
テストット カウチス 60	38 5.24	グレインガー プリンス 24	113	38 9.14	3	7	10	0	1.53	5.37	14.76	18.22	0.197		1	1	胎形除 のクへ ハニヤ1	1	5	6	100	40日離乳	
ウイテクロス ベガ 337	38 1.023	ビーゲルオブ リンボ 231	113	38 2.14	2	4	6	0	1.41	5.76	14.61	17.20	0.286					1	3	4	100	37日離乳	
ニューズダンス ベガ 110																							不 産
クニマクシンクツキ 62-1015	38 6.24	ビーゲルオブ リンボ 231	113	38 1.015	4	4	8	死1	1.36	6.32	17.00	19.80	0.330					4	3	7	100	35日離乳	
クニカウデナ 62-1094																							胎形出現率が高いためS3 81 0 4 農林省に返還
計	7	7	113~ 117		26	30	56	9	10.28	4.75	11.62	13.65					1	3	5	15	22	37	92.37
平均	1		114.4		3.71	4.28	8.00	1.28	1.47	6.25	15.98	18.68	0.310									66.07	失格登記は哺育頭数56頭に対する%

(1) 仔豚の飼料は初産と同様である。

4. む す び

- 1 ランドレース種の発育は気候・飼料・環境・育成技術等により差があるが、全般的に后軀の張りは良好であるが、雄は胸巾・雌は胸州・胸巾・体高の不足が見られる。
- 2 分娩頭数が初産に比較して2産目が少なかったのは、輸入による環境の変化と疫学的な問題があるものと思われる。すなわち2産目に至り初めて夏を経過したため黒子、死産の発生が1腹平均1.28頭が出現し初産に比較して平均1.14頭多かつた。又3産4産を経過するにつれ産子数の増加が見られ漸次能力の向上が見られる。
- 3 在胎日数は113日から117日で平均115.01日で、ヨークシャー種より1日長い傾向がみられる。
- 4 生時体重は初産平均1.32kg、2産平均1.47kgで大型のものが多く見られる。
- 5 陣痛は一般に微弱の傾向があり、分娩補助を要する場合が多い。
- 6 分娩時間はヨークシャー種の場合と大差ない。

7 母豚の泌乳量が多いため子豚の発育が良好な反面母豚の栄養維持がむずかしく、分娩哺乳による体重の増加が顕著であり、又哺乳による母豚のやせ方が甚だしいので早期離乳を行う必要がある。

8 垂れ乳のものがなく飲み易く、子豚の吸飲力も強いので子豚の発育が均一である。

9 失格欠点が初産に17頭、2産で9頭出現したが体をふるわせるものの出現はなかつた。これらの失格事項のうち畸形の出現率は初産4頭5.47%、2産5頭8.92%でスエーデン系に間性の発現が1頭見られた。

10 餌に対する食付もよい方でないが、馴れるに従いよくなり、30日前後の離乳も困難でない。

11 登記率は分娩頭数即ち哺育開始頭数に対し初産58.9% 2産66.07%であつた。

12 体重の割に四肢及び蹄が弱く下肢に故障が発生し易い傾向があり、特に育成豚は運動を課することが必要であり、要すれば広い運動場に放牧することが望ましい。

13 輸入豚に全身性けいれん症(特に肩部、四肢に甚だしい。)症状を呈するものがあるが、その遺伝性と実害の有無については今後の研究課題である。

養豚飼料構造実態調査

利用品目出現頻度について

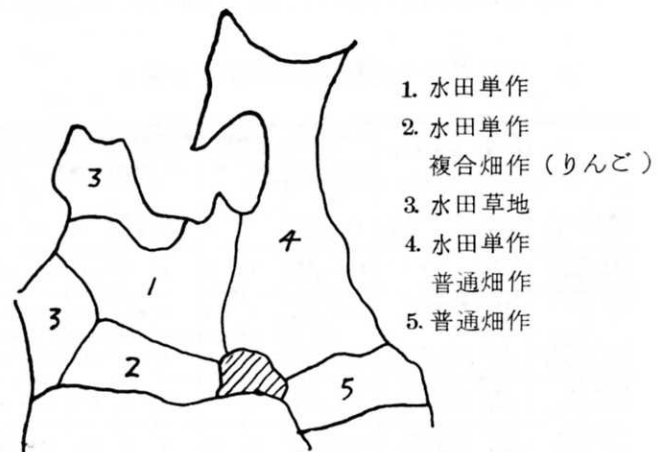
近藤 洋・石田武男・山崎喜三郎
今 功・岡田光男

(青森県畜試)

1. ま え が き

畜産の振興に伴ない、養豚も今後ますます盛んになる気運にあるが、一戸当りの飼養頭数規模はここ当分の間は所謂零細規模からせいぜい副業の規模に留まることが予想され、その様な状態では、その収益性に大きく影響する飼料については自家農業副産物の積極的利用が特に大切である。

しかし、それについては殆ど計画的な利用が行われていない現況にあるので、今後の合理的利用法を確立することが必要である。そのための基礎資料を得る目的で青森県内養豚農家における飼料構造の実態調査を行った。



第1図 青森県農業地帯区分

2. 調 査 方 法

養豚における飼料構成は、種々の営農類型下で異なることが予想される。第1図は本県における農業地帯区分を示すもので、これらのうち、津軽水田単作、水田りんご作地域、上北、三戸郡の田畑、普通畑作地域、それに

都市近郊および沿海地区を加え、6農業地域から資料に基づいて養豚密度の高い市町村を選定し、それぞれ30戸の養豚農家について実態調査を行った。(第1表)。調査時期は、昭和38年12月および39年1月である。